

待てない 貸せない

よく子どもに「順番ね」と言いますが、3歳くらいまでは脳の機能として「先を想像する」ことが難しく「自分の順番が来る」ことが解らないので、「待てない」というより「待つ」意味が解っていないものです。



なので、順番が来るまで大人がそばにいて他のことをしながら待ち、必ず自分の番が来ることを何度も経験させることが大事です。

オモチャの貸し借りも、お友だちの使いたい気持ちに共感したり、自分も番が来れば貸してもらえることがわかると、オモチャの貸し借りができるようになります。

「このオモチャ好き？」と聞いてあげて、「きっとお友だちもこのオモチャ好きなんだね」と言ってあげると、反応が変わるかもしれません。

オモチャの取り合いでポカッとやってしまった時も、「どちらが悪いのか」ではなく、両方の言い分を聞いて「叩くのはだめだよ」と伝えたいので「オモチャ取られて嫌だったよね」と共感してから「でも、叩かずに『取らないで』って言葉で言おうね」と教えてあげましょう。

それから「順番で使おうか」と提案してはどうでしょうか。

きょうだいなど年の差がある場合、どうしても小さい子は年長の子の使っているオモチャが欲しくなるものですが、つい年長の子どもに「お兄ちゃんなんだから、我慢して下の子に譲りなさい」と言いがちです。

ですが、悔しい思いが積もって爆発したり、小さい子をいじめたりすることにつながりかねないので、子どもの年齢や男女の差なく、公平に接することで、子ども同士で自然と貸し借りしながら仲良く遊ぶことを覚えていきます。ちょっとした一言が大事なんですね。